

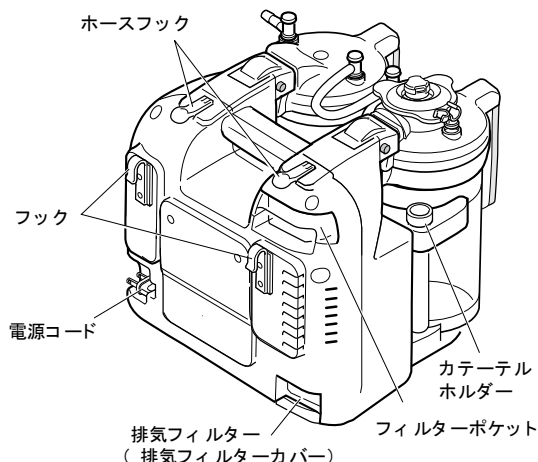
パワーキャリア II CPS2-2800

【警告】

- 吸引物をポンプ側に吸い込んだ場合は、配管内に溜まる危険があるため、必ず製造販売元または医療機器修理業者による点検を受けること。〔故障の原因になる〕
- 本体背面の通気口を塞がないこと。〔本体内部が熱をもつ〕
- フィルター(Φ19),PESS フィルターは吸引力が低下したと感じたら、早めに交換すること。万一吸引物を吸い込んでしまった場合には、1回で目詰まりを起こし、吸引できなくなってしまう場合がある。〔ミスト状になった吸引物が付着するため、徐々に目詰まりを起こす〕

【禁忌・禁止】

- 規定以上の連続使用はしないこと。(6時間まで)〔規定以上の連続運転をした場合は、発熱等により、部品の劣化やにおいが発生することがある〕
- 本体各部に注油しないこと。〔発火するおそれがある。〕
- フィルター(Φ19),PESS フィルターは滅菌・消毒をしての再使用をしないこと。新しいフィルターと交換すること。

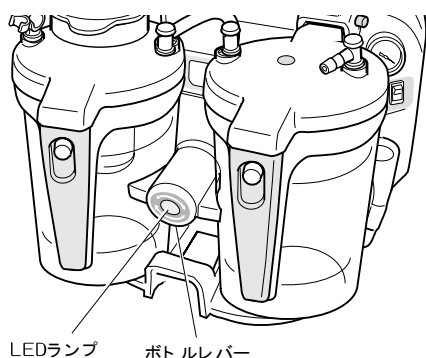
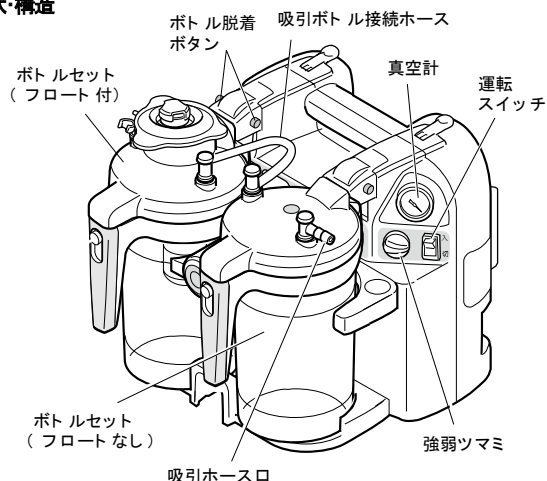


【本製品は EMC 規格 JIS T 0601-1-2:2023 に適合しています】

但し、他の医療機器、電子機器との併用において、相互に影響を生じる場合があります。本書に従って正しい取り扱いをしてください。

【形状・構造および原理等】**

1.形状・構造



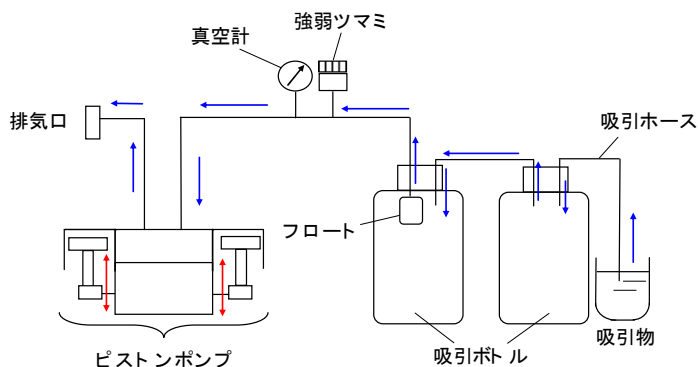
2.原理

本器は、ピストンポンプ、真空計、強弱ツマミ、吸引ボトル、フロート、吸引ホースで構成されています。モーターが作動すると、ポンプユニットのピストンが往復(上下)運動し吸気・排気を繰り返します。

・吸気経路が吸引ボトルと吸引ホースにより連結されて、吸引ホース先端に接続されたカテーテルより吸引物が吸引され、吸引ボトルに溜まります。

・強弱ツマミを回すことにより大気開放口から大気を導入され、吸引圧力を調整することができます。

吸引圧力は真空計に表示されます。



3.機器の分類・電気的定格

電源	交流 100V(50-60Hz) 消費電力:150VA	
電撃に対する保護の形式	クラス II	
電撃に対する保護の程度による装着部の分類	B形装着部	
水の有害な浸入に対する保護の程度による分類	IPX0	

4.寸法・質量

本体寸法	幅 330 × 奥 335 × 高 275(mm)
質量	9.2kg

取扱説明書を必ずご参照ください。

<仕様等>

吸 引 圧 力 (最 大)	-85kPa
吸 引 流 量 (最 大)	42L/分

※上記性能には自社規格による公差があります。

※仕様は出荷時のものであり、ご使用の期間・頻度により性能は低下してきます。性能を維持し、安全にお使いいただくために、日常点検、3 ヶ月毎の保守点検(ユーザー点検)および 2 年に 1 度の製造販売元または医療機器修理業者による定期点検を行ってください。

【使用目的】

本器は医療施設、在宅等で喀痰等の液体又は粒状物質の吸引に使用する。

【使用方法等】

詳細については、取扱説明書の「正しい取扱い方」を参照してください。

1.準備

- ①本器を水平な安定した場所へ置いてください。
キャスターを使用する場合は本体正面の取っ手を持って移動させます。
- ②電源コードを本体より引き出し、コンセントに差し込みます。
- ③ボトルカバー・吸引ボトル接続ホース等が漏れないように取り付けられていることを確認します。(ボトルレバーを回転し縦向きにして、2つのボトルを本体に接続します。接続後、ボトルレバーを回転し横向きにしてボトル固定します。)
- ④吸引ホース・カテーテル(市販品)をつなぎます。
- ⑤運転スイッチを「入」にすると、本器が運転し吸引を始めます。
運転中は、本体正面の LED が点灯します。
吸引ホースを指で折り曲げて、強弱ツマミを回して必要な圧力(医師の処方した圧力)に調整します。
この後、一度運転スイッチを「切」にしてください。

2.操作

- ①運転スイッチを「入」にし、本器を運転させます。
- ②カテーテルの先端を処置部に挿入します。
- ③吸引圧力が不足したとき、または強い場合は強弱ツマミをゆっくり回し、真空計の目盛りを見ながら徐々に吸引圧力を加減してください。
※吸引物は吸引ボトル内に一杯になる前に早めに捨てるようにしてください。

3.使用後の取扱いについて

- 本器を永く、正常にご使用いただくため、使用後の処置は大切です。次の手順に従ってお取り扱いください。
- ①吸引が終了しましたら、精製水または滅菌水などを吸引し、ホースの洗浄を行ってください。ぬるま湯(40℃程度)を吸引するとより汚れが落ちやすくなります。
 - ②運転スイッチを「切」にし、電源コードを抜いてください。(コードは必ず根元のプラグ部分を持って抜いてください。)
 - ③吸引ホース・吸引ボトル接続ホースを取り外します。
 - ④ボトル脱着ボタンを押して本体よりボトルセットを外します。
(ボトル脱着ボタンは左右いずれも片側のボタンのみ押すことで脱着できます。)
 - ⑤各部品を取り外して洗浄します。
フィルター(Φ19)、PESS フィルターは洗浄時に取り外してください。
 - ⑥吸引ホース、吸引ボトルセット、カテーテルホルダーは滅菌・消毒してください。(在宅の場合は必要に応じて消毒してください。)
- 注フィルター(Φ19)、PESS フィルターは滅菌・消毒しての再使用はできません。

4.滅菌・消毒について

【保守・点検に係る事項】1.滅菌・消毒についてを参照してください。

5.本体の清掃

水で湿らせた布に中性洗剤を少量加えて汚れを落とし、乾いた布等できれいに拭き取ってください。

6.排気フィルターの清掃

排気フィルターは洗浄して再使用可能です。汚れが目立ちましたら洗浄してください。

【使用上の注意】

<重要な基本的注意>

- 在宅において使用する場合は、医師または医療従事者の指導に基づき使用すること。
- 本器及び患者に異常のないことを絶えず監視すること。
- 本器及び患者に異常が発見された場合には、使用を中止すること。
- 電源の電圧、周波数および許容電流値に注意すること。
- 吸引ホースは折れ曲がらないように注意すること。[閉塞により吸引ができなくなる]
- 吸引物は早めに捨てること。[安全装置が動き、吸引が止まる]
- 本器に吸引圧力が残ったまま(真空計の針が0に戻っていない状態)、運転スイッチを「入」にしないこと。[運転しなくなるおそれがある]
- 本器は周囲温度 10 から 40℃、相対湿度 30 から 75%の環境で使用すること。
- 水がかからないように注意すること。
- 電源プラグは根元までしっかりと差し込むこと。
- 電源コードを傷つけないこと。コードの上に物を置かないこと。
- 電源プラグ、コンセントや本体底面の吸気口に「ほこり」を溜めないようにこまめに清掃すること。[コンセントが熱を持ち、ほこりに引火することがある]吸気口に埃が溜まると、本体内部が熱を持ちポンプが停止するおそれがある]
- 長期間使用しない場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜くこと。
- 長期間使用しなかった場合は、点検に出すなど作動上の安全を確認してから使用すること。
- 本器の連続運転時間は 6 時間以内です。連続運転時は金属部やその周辺が熱くなるので注意すること。
- 連続運転時は排気温度が高くなるので、排気口を塞がないこと。

<不具合・有害事象>

- 1)重大な不具合
吸引異常(吸引不能・過吸引)
- 2)その他の不具合
接続部からの気密漏れ
- 3)その他の有害事象
感染

【保管方法及び有効期間等】

<保管方法>

- 周囲温度-10 から 60℃、相対湿度 10 から 75%の環境で保管してください。
- 水のかからない場所に保管してください。
- 温度、湿度、日光、ほこりなどにより悪影響の生ずるおそれのない場所に保管してください。また、塩分、イオウ分を含んだ空気に触れないように保管してください。
- 傾斜、振動、衝撃(運搬時を含む)など安定状態に注意してください。
- 化学薬品の保管場所やガスの発生する場所に保管しないでください。
- 吸引ボトルおよび吸引ボトルの付属品は、洗浄・消毒後よく乾燥させて、ちり・ほこりが入らないよう、清潔な場所に保管してください。

<耐用期間>

本器の耐用期間は、購入後 7 年です(当社データによる自己認証)ただし、推奨された環境で使用され、次の「保守・点検に係る事項」を実施した場合の耐用期間であり、使用状況により差異が生じることがあります。

<廃棄について>

本器(構成品を含む)を廃棄する場合は、お住まいの市区町村の指導に従ってください。環境汚染の原因となることがあります。

【保守・点検に係る事項】

<滅菌・消毒について>

詳細については、取扱説明書の「滅菌・消毒について」を参照してください。

①病院等の施設での滅菌・消毒方法

吸引ホース、吸引ボトルおよび吸引ボトルの付属、カテーテルホルダーは、洗浄後 EOG(エチレンオキシドガス)滅菌または消毒剤による浸漬消毒をおすすめします。

● EOG(エチレンオキシドガス)滅菌

EOG(エチレンオキシドガス)滅菌を行う場合は 50℃以下で行ない、滅菌後十分にエアレーションを行うなど、残留ガスには十分注意してください。

●消毒剤による浸漬消毒

ボトルセットの各部品等は、各材質に合った消毒剤を用いて浸漬消毒を行ってください。

必ず消毒剤の添付文書をよく読み、記載されている濃度を守ってください。

グルコン酸クロルヘキシジン(ヒビテン液など)、逆性石けん類(オスバン液など)などの樹脂にやさしい消毒剤をおすすめします。

注以下の消毒薬はご使用を避けてください。

- ・金属部の腐食を起こす
次亜塩素酸ナトリウム、ポビドンヨード系
- ・金属部の腐食やゴム類に劣化を起こす
過酢酸
- ・樹脂に劣化を起こす
フェノール、両性界面活性剤系、アルコール系

②在宅での消毒方法

消毒剤による浸漬消毒をおすすめします。

(上記●消毒剤による浸漬消毒 参照)

③消毒後について

消毒後はすすいで、よく乾燥させます。元のようにボトルセットを組み立て、本体に取付けてください。この際、各 O リング・パッキンはきちんと組み込むように注意してください。ボトルパッキン・フロートストッパーは取付け向きに注意してください。無理に取り付けると、パッキン等の破損により漏れの原因となります。

<使用者による保守・点検>

点検項目(日常点検)

- 1) 電源コードが変形していないことを確認してください。
- 2) 吸引ボトルおよび吸引ボトルの付属品の外観に異常がないか確認してください。
- 3) 運転スイッチの入/切が正常で、指で吸引ホースを折り曲げ、強弱ソマミを回して、真空計の指針がスムーズに変動することを確認してください。

点検頻度: 使用前に点検

点検項目(保守点検)

点検の項目については、取扱説明書の「保守・点検」のチェックリストを参照してください。

点検頻度: 3 カ月に一度

点検により異常が発見された場合には、お買い上げの販売店にご相談のうえ、製造販売元または医療機器修理業者に点検・修理を依頼してください。

<業者による保守・点検>

点検項目(定期点検)

ゴム製部品などの消耗部品の交換を行います。また、必要に応じて消耗部品以外の劣化の進んでいる部品の交換を行います。

吸引器は長時間の使用の中にミスト状の吸引物等がポンプ内および配管に浸入します。そのため、吸引能力が次第に初期値に比べて低下しますので、必ず定期点検を受けてください。(有料となります。点検周期については当社推奨)

点検頻度: 2 年に一度

消耗部品の交換について

- PESS フィルター(オプション品)をご使用の場合は、吸引能力の低下を感じたら、早めに交換してください。

PESS フィルターは使用状況により交換頻度が変わります。滅菌しての再使用はできませんので、新しいフィルターと交換してください。(詳細については、取扱説明書の「オプション・交換部品について」参照)

- パッキン、O リング、フィルター、ホース類は消耗部品です。破損、ヒビ、変形等が見られる場合には速やかに当社純正部品に交換してください。交換部品については販売店へご連絡ください。また、パッキン等のゴム製部品およびプラスチック製部品は経年劣化しますので、定期点検を必ず受けてください。

修理について

お買い上げの販売店にご相談のうえ、製造販売元または医療機器修理業者で行ってください。

～お願い～

本器を修理として戻される場合には、滅菌または消毒を行った後にお戻しください。なお、感染症等の恐れがある場合にはお受け取りできませんので、あらかじめご了承ください。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】**

製造販売元: 株式会社 Sanko Medical

埼玉県さいたま市西区中釘 652 番地 TEL 048-624-8121